

がん・エイズの研究へと移っていつているそうだ。しかし、無論根絶した訳ではなく受験進学校で集団発生することもあるという。(運動不足・ストレスetc)一週間以上咳が続く時は専門家に診てもらえとの忠告を受け、今度は病院内部を案内していただいた。屋上へ登って見回すとあたりは今でも緑が多い。昔はさぞ草深い療養地だったろうと憶われた。

病院内の食堂で昼食をとった後、気象衛星センターへ。スライドを見せていただいた後、センター内部を説明をうけながらまわる。衛星から情報が伝達される様、それらを解説して天候の予測をする経緯などがおぼろげながら理解できた。

興味深かったのは衛星から送られてきた写真を時間をずらして次々と写しだしているモニター(?)である。画面中央に日本がある。青い地に白くはけで掃いたようにみえているのが雲だろう。カチャカチャと音をたてて画面がうつりかわるに従って、太平洋上に発生した巨大な渦巻きがぐーっと巻きこみながら日本のはるか南をくぐって中国の方へ通り過ぎていった。ははあ、これを見ながら動きを予測するんだな。納得する。渦の

真中にぼつんと針でついたように開いた穴がいわゆる“台風の目”だと気付いて驚いた。考えていたよりずっと小さい。本当はこんな風にはっきり見える事の方が少なくて、この目を探しだすのが大変なのだとも伺った。さもありなん、渦にまぎれてしまうそうだ。そんな画面を食いつくように見て何事か統計をとっている人達。どこもかしこも複雑そうな機械で一杯だった。これだけの設備を使ってもなかなか完全とはいかないのだから、自然を読むというのがいかに難しいかということか。

終わった途端に(当たり前だが)出されたレポートに頭を悩ませつつ、我々の一日巡検は終わった。

全体を通して田宮先生が研究所の方にもセンターの方にも丁寧にあいさつしておられたのが印象的だった。

どこへ巡検に行ってもその土地の方々は親切にして下さるが、先生と土地の方々が友好的だと、こちらも安心してご好意に甘えていい気になる。健康的で気持ちのいい巡検だったと思う。

(10月4日 田宮教官指導)

相 模 原 巡 検

小 池 桃 子

お茶の水女子大学に入学し、大学生活にもそろそろなれてきた7月に、私達1年生にとって最初の巡検が行われた。入学式の日、巡検に行くのが楽しみだ、と自己紹介した私であったから、待ちきれない思いでその日を迎えた。今回の巡検地は相模原市である。10時に相模大野駅に集合し、小雨の降る中、まずは相模原市役所の出先機関である相模大野駅周辺事務所へ。ここで当市の抱える諸問題や現在進められている都市計画の概要を伺った。相模原市は人口約51万人、全国656都市中21番目に多い人口を持つ、首都圏域における中核都市であるが、市民のニーズに十分応えるだけの中心商業地を持っていない。そのため現在市の消費購買力の実に5割以上が市外へ流出している。相模大野地区は、この現状を改善するために相模原市が策定した「相模原市商業振興ビジョン」に

よって、中心商業地に指定された地域の1つで、将来は相模原市の商業的支柱となるべく現在開発が行われている。その具体的な開発計画を伺いながら私達は必死でメモをとった。その後は事務所の屋上に上り、相模大野地区を一望した。屋上からは、事務所の方のお話の中にあつた平成二年完成予定の大型百貨店の建築風景や真新しい立体駐車場などが見渡せ、これから発展していく街の静かな躍動感が感じられた。次に私達はバスに乗って梨園へ向った。バスを降りるとその車道沿いに梨園はあり、車の往來の激しいこの通りに沿ったこんな所で農業をしているのかと内心驚いた。この地で戦後から農業をやってこられた園主の鈴木さんから様々なお話を伺った後、再びバスに乗って日本シュルンベルジェに向った。バスを降りて少し歩いた所にその会社はあつた。芝生の敷きつ

められた広々とした敷地内にモダンなデザインのビルが建っている。中に入ってみると内装もかなり凝っており、白を基調としているためかなり清潔感のあふれるイメージだ。広い部屋に案内されお話を伺った後、二組に別れて社内見学を行った。社内はあまり人の気配がなく、代わりに目立ったのがコンピュータだ。とにかくどの部屋に行っても何台も置いてある。通路を歩いていると、向うから四角い箱のようなものに車のついた機械がゆっくりとやってきた。誰か人がそばにいて動かしているのかと思ったが、驚いたことにそのような人はいない。自分で通路の角を曲り、な

おゆっくりと進んでいくその機械を見ながら、ここでは機械やコンピュータが主役なのだ、と思った。もちろんそれらを動かしているのは人間なのだが、どう見ても人間は脇役である。

会社の見学が終わった後、バスで淵野辺駅へ戻り、そこで解散。初めての巡検がそこで終わった。一日でいろいろな事を教えていただきました実際に見て歩いて、かなり疲れたが、心地よい疲労である。今後は、事前学習が十分でなかったなどの今回の反省点をふまえ、これからの巡検をさらに実りあるものにしていきたい。

(7月13日 内藤教官指導)

千葉巡検

鈴木美千代

私達1年生にとって3回目の巡検となった千葉巡検は、すばらしい秋晴れの天候のもと、10月14日に行われた。総武本線で千葉まで行き、そこで約8時30分に菅田に集合という予定であったから、早起きするのが少々つらかった。

菅田駅から瀬又新田まで、私達は地図を片手に浅海先生の後をつけて歩いていった。瀬又新田では、褐色火山灰層、すなわち私達のよく知っているローム層や、その他、灰色粘土層、砂層などが露頭となっており、地層が重なり合っている様子がよく見てとれた。

それから村田川低地の水はけの悪い水田を見学した後、私達はさらに瀬又堰に向かって歩き続けたのだが、到着するまでが本当に大変だった。何しろ道になっていない山を一生懸命はい上がって行ったのだから。スカートをはいて来ていて登りにくそうな人や、ストッキングが破けてしまう人もいた。とにかく必死で、すべる坂道を周囲の草木につかまりながら登っていったのだ。健脚で名の知れた浅海先生は、四苦八苦している私達などおままいなしといった様子でどンドン進んでしまおうし、たかが1日巡検とたかをくくっていた私などは、この時点でもう歩きたくない、帰りたいなどと思っていた。ところが、目的地へ着いてみて私は驚いた。中学生の時、理科の教科書の口絵になっていたような光景が今、目の前に広がってい

る。何と地層の中に貝の化石がたくさんあるのだ。私達が今登ってきたこんな高い山も、はるか大昔は海だった。海底でつくられたこの地層が、大地の隆起によって今は山となっている。私は自然の営みのすばらしさに、しばしの間感慨にふけていた。よく見ると足もとに貝の化石が、石ころのように転がっている。私達は、思わず「わあっ」と叫んでしまった。

再び菅田駅まで歩いて戻り、それから電車で千葉駅まで行くと、私達は、そこからバスに乗って、最終見学地である千葉県立中央博物館へ向かった。目的地に着くと、私達はつかれてお腹がぺこぺこだったので、とりあえず昼食をとった。それから、係の人の説明を聞きながら博物館の中を見学させていただいた。係の人は、房総半島の地形や生物などの自然について、歴史について、人間が自然とどんなふうにかかわってきたかなどについて、それは親切に説明してくださった。

今、千葉巡検を振り返ると、浅海先生のあの恐しくもすばらしい足の後について、本当によく歩いたなあと思う。そして、個人的に言わせてもらえば、あの山でみた、たくさん貝の化石が、とても印象に残っており、今でも私の頭に焼きついて離れないのだ。

(10月14日 浅海教官指導)